



高大接続における 両者の役割とその入試 ～九州大学を例に～

林 篤裕

(九州大学 基幹教育院
& アドミッションセンター)

(21世紀プログラム主導教員)

e-mail: hayashi@artsci.kyushu-u.ac.jp



1

歴史

学部を中心に



- 1867 黒田藩医学校 養生館
- 1877 福岡病院
- 1879 福岡県立 福岡医学校附属病院
- 1888 福岡県立 福岡病院
- 1903 京都帝国大学 福岡医科大学

東京、京都、東北
に続く4番目の
帝国大学として

- 1911 九州帝国大学 医科大学、工科大学
- 1919 医学部、工学部、農学部
- 1924 法文学部
- 1939 理学部
- 1947 (旧制) 九州大学
- 1949 (新制) 九州大学 文学部、教育学部、法学部、経済学部
- 1964 薬学部
- 1967 歯学部
- 2003 芸術工学部 (九州芸術工科大学と統合)
- 2004 国立大学法人 九州大学



KYUSHU UNIVERSITY 100th 2011
知の新世紀を拓く



2

九州大学 概要

総長1・理事8・監事2 計11名

学部 11 (+1)
大学院学府 18

附置研究所等 4
附属図書館 1 (分館6)
(蔵書約400万冊)
病院 1 (約1,200床)
全国共同利用施設 1
学内共同教育研究施設 37
機構 4

2014年5月1日現在

学部学生 11,859名
(女子 3,344名)
大学院生 6,987名
(女子 1,926名)

外国人留学生
1,972名 (79ヶ国・地域)
学生の海外留学 2013年度
612名 (42ヶ国・地域)

教員 2,106名
教授 699名
准教授・講師 732名
助教他 675名
事務・技術職員
2,010名

学部卒業
約14.0万人
修士修了
約5.0万人
博士学位
約2.7万人

土地 約76km²
福岡、長崎、熊本、
大分、宮崎、鹿児島、
北海道



KYUSHU UNIVERSITY 100th 2011
知の新世紀を拓く

3

グローバル/グローバル人材とは

- ◆ 文部科学省では: 2000年11月22日(平成12年) 大学審議会
- ◆ グローバル化時代に求められる高等教育の在り方について (答申)
 - ◆ http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/old_chukyo/old_daigaku_index/toushin/1315960.htm
- ◆ グローバル: 社会、経済、文化の地球規模での交流が進み、国際的な協調、共生さらには競争の関係が増大する時代
- ◆ (1) グローバル化時代に求められる教養を重視した教育の改善充実
 - ◆ 高い倫理性と責任感を持って判断し行動できる能力の育成
 - ◆ 自らの文化と世界の多様な文化に対する理解の促進
 - ◆ 外国語によるコミュニケーション能力の育成
 - ◆ 科学リテラシーの向上

4

九州大学のグローバル活動の例

- ◆ Global 30: 留学生対象
 - ◆ 大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業
 - ◆ 2009年度-13年度、大学の財源で現在も継続中
 - ◆ 工学部、農学部: 若干名(概ね30名)
- ◆ Global Vantage Program: 主に日本人対象
 - ◆ 法学部、AO入試(2015年から)、10名
 - ◆ 高度な法専門知識と国際交渉力を持った人材養成
- ◆ 21世紀プログラム: 主に日本人対象
 - ◆ 学部横断型教育、AO入試(2001年から)、26名
 - ◆ 「専門性の高いゼネラリスト」
 - ◆ アクティブな学生の確保・輩出
- ◆ 他にもいろいろ

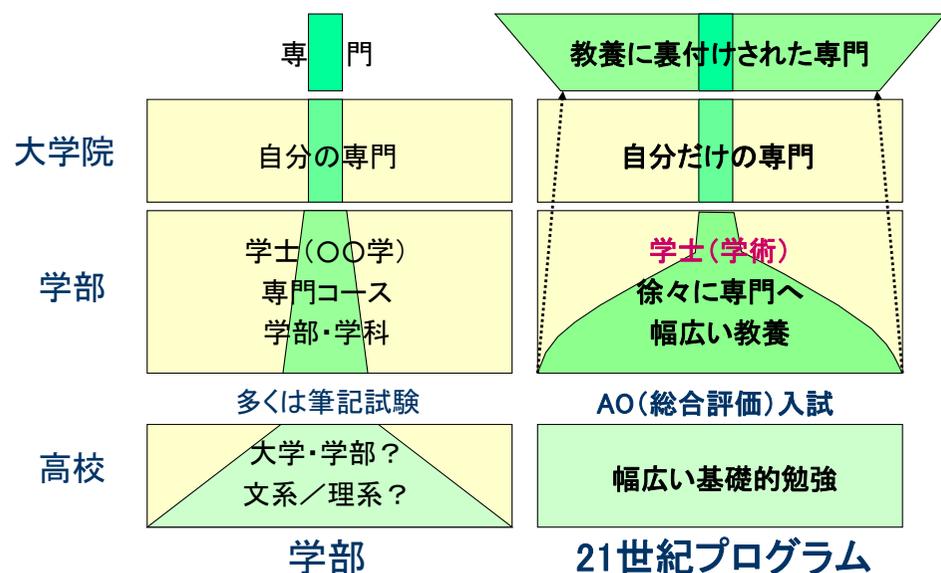
21世紀プログラム: 教育の枠組み

2003年度 文部科学省の「特色ある大学教育支援プログラム」に採択



幅広い教養、表現力、国際性を身につけ、チューターの指導を受けつつ、
 いろんな学部の専門を組み合わせる「自分だけの専門」を創る。

21世紀プログラム 専門を決める



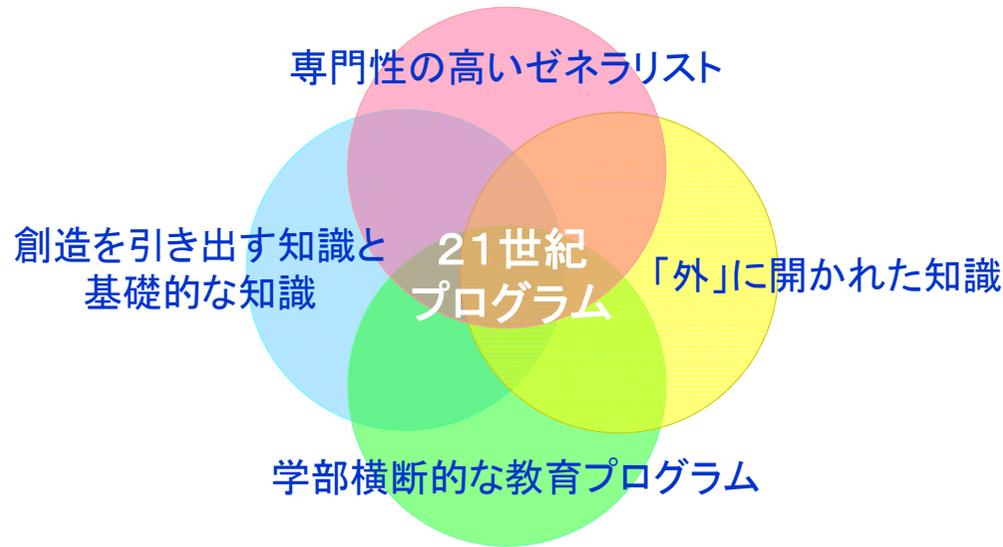
The 21st Century Program 課程現況

	入学期	募集	合格	年度	入学者	転課程学部	卒業生	交換留学	語学研修等
卒業	1期	18	20 (5)	2001	20 (5)	1 (0)			
	2期		22 (6)	2002	22 (6)	2 (1)			
	3期		19 (5)	2003	19 (5)	0 (0)		7	20
	4期	26	25 (5)	2004	25 (5)	1 (1)	16	8	8
	5期		30 (12)	2005	30 (12)	1 (0)	25	5	5
	6期		27 (7)	2006	26 (7)	2 (1)	15	2	4
	7期		27 (9)	2007	26 (8)	2 (1)	20	10	2
	8期		27 (10)	2008	27 (10)	2 (1)	33	10	4
	9期		28 (7)	2009	27 (7)	1 (0)	28	5	4
在学	10期		27 (6)	2010	27 (6)	1 (0)	19	11	6
	11期		25 (8)	2011	25 (8)	0 (0)	27	7	8
	12期		28 (10)	2012	28 (10)	1 (1)	30	6	17
	13期		25 (9)	2013	25 (9)	0 (0)	24	13	11
	14期		25 (5)	2014	25 (5)			8	
総計			355 (104)		352 (103)	14 (6)	237	92	88
在学生数			119 (37)						

()は男子で内数

2014/4/1現在

The 21st Century Program **理 念**



The 21st Century Program **教育の柱**

幅広い教養から専攻テーマ
国際／環境・生命／市民社会／情報

表現力と国際性
語学力の強化, 学年縦断のゼミ, 留学の推奨

専門性の高いゼネラリスト

学生一人ひとりが自分だけのカリキュラム
チューター制度, 履修指導と体系性の維持

学生一人ひとりが自分だけの専門
専門委員会での指導・承認, 卒業研究

The 21st Century Program **カリキュラム**

基幹教育科目	単位	年次
基幹教育セミナー	1	1
課題協学科目	5	1
言語文化基礎科目	12	1-2
ディシプリン科目	16	1
健康スポーツ科目	1	1
総合科目他	4	1
高年次基幹教育科目	2	2-4
その他	7	2-3
計	48	

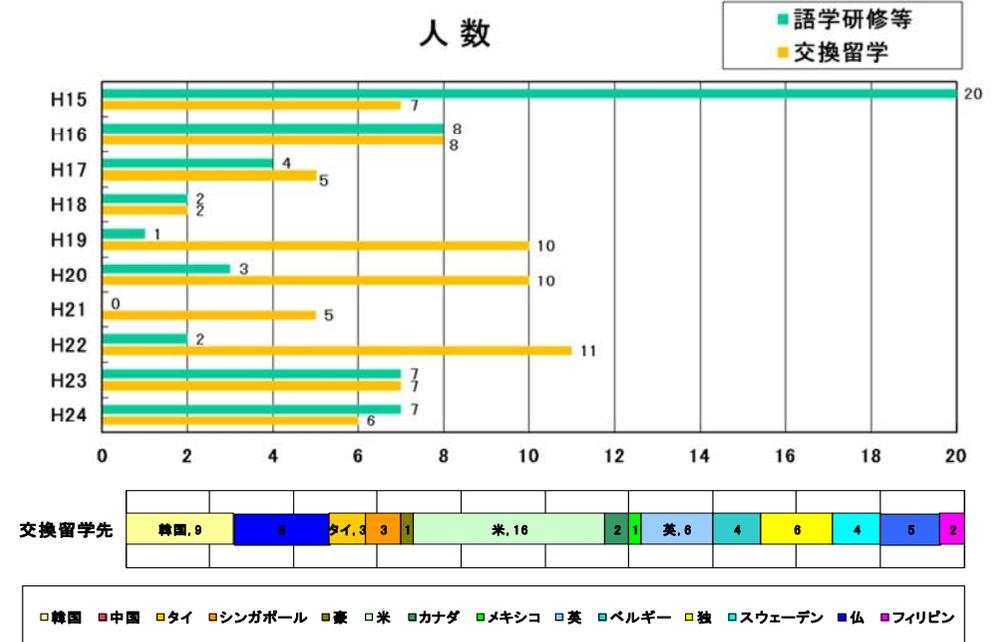
専攻教育科目	単位	年次
チュートリアル	8	1-4
プログラム・ゼミ	16	1-4
21世紀プログラム英語	3	2
課題提示科目	8	1-2
課題研究	1	2
専攻テーマに関わる科目	36	2-4
卒業研究	4	4
計	76	

合計 124

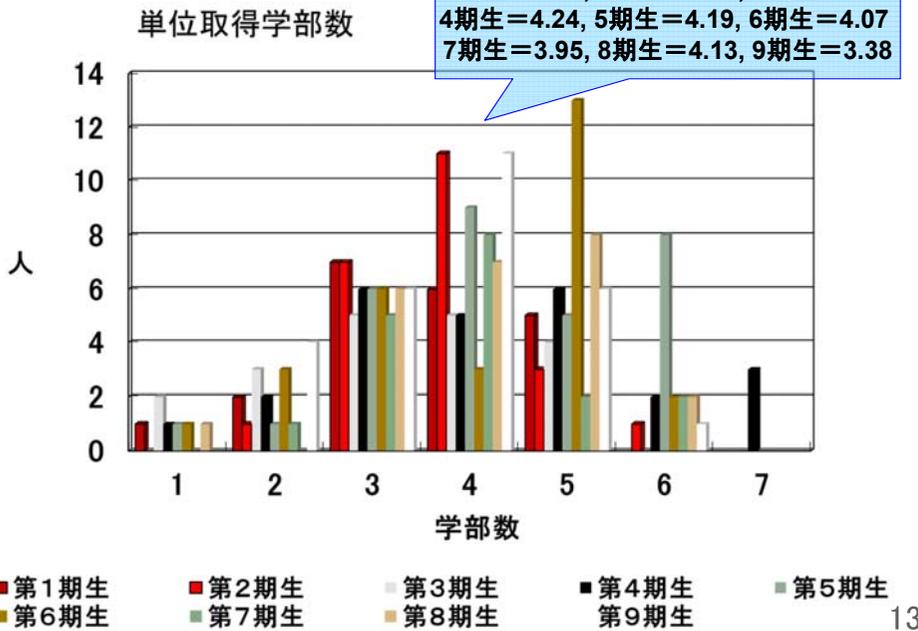
特別科目A・B
社会連携科目A・B

基幹教育科目と
全学の専攻教育科目から

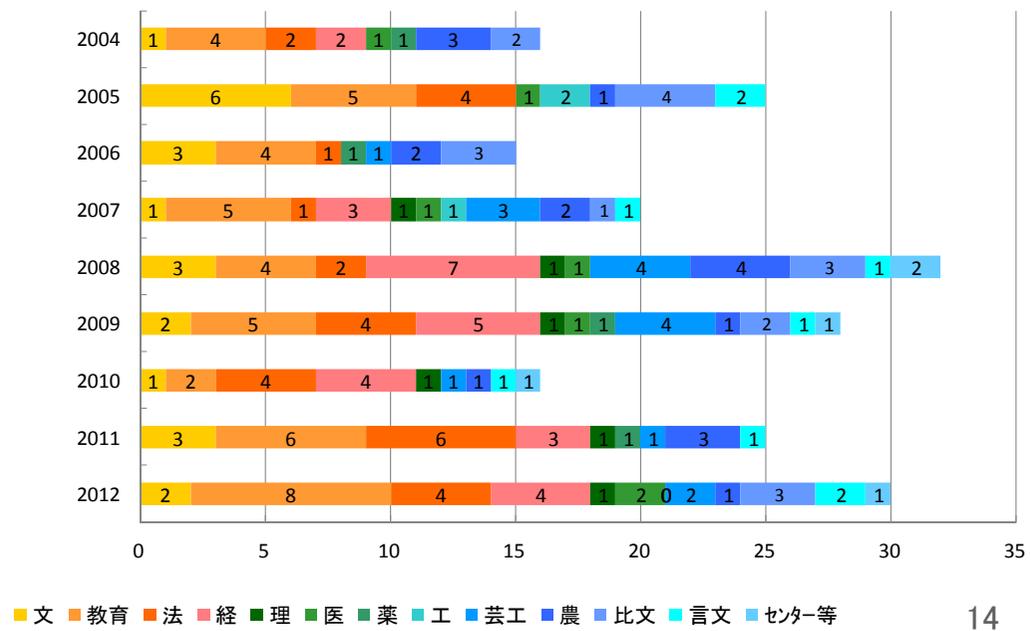
The 21st Century Program **留学・語学研修**



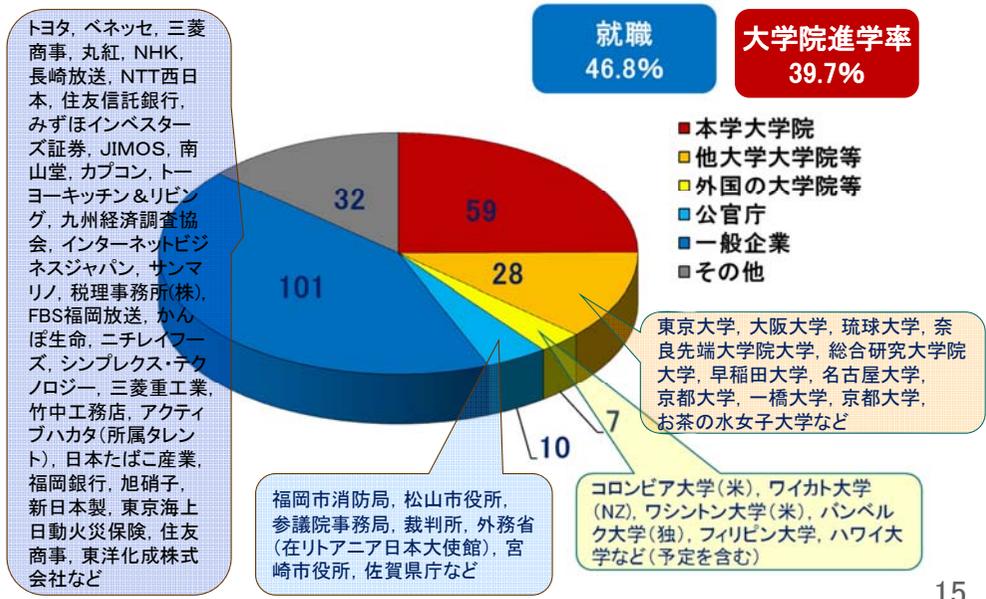
1期生=3.95, 2期生=4.09, 3期生=3.32
4期生=4.24, 5期生=4.19, 6期生=4.07
7期生=3.95, 8期生=4.13, 9期生=3.38



2004年度～2012年度卒業生



卒業した第1期生～第10期生(237名)



小まとめ: 21世紀プログラム

- ◆ 学部横断型教育
 - ◆ 「専門性の高いジェネラリスト」
 - ◆ 海外留学を推奨
 - ◆ 総合大学の利点を活かした教育: 11学部
 - 学内の協力のもとに運営
 - ◆ 学内外からの理解を得ることに腐心
 - ◆ アクティブな学生の効用: 多様な学生の一つとして
 - ◆ 仕組みの構築・運営には工夫
- ◆ 他学部学生への波及効果も
- ◆ 大学院進学をもっと増やせれば: 学内外、海外
- ◆ より一層の広報が必要

大学としての役割

- ◆ 自由な発想
- ◆ 多様な環境の整備、情報の提供
 - ◆ 専門、人、考え方、文化、地域、.....
- ◆ 学内はもちろん、学外や国外でも修学
- ◆ 「やりたい時に、やりたいことを、
やりたいように、やれる」環境の提供
- ◆  自分の意志・目的を持って進学
 - ◆ 高校で取得した学力を基礎として
 - ◆ 大学の機能を使い尽くそうという気持ち

17

飛躍を後押しする態度・言葉を

- ◆ 若者に対して「ゆとり世代」、「内向き志向」と
- ◆ 不誠実な言葉。失礼な呼称。
 - ◆ 逃げに使っているフシも散見
- ◆ 18年間という時間: 世代に関係なく同じ
 - ◆ 「教科書が異なる」、「厚みが異なる」、.....
 - ◆ 習得しているものが異なる
 - ◆ その評価方法が判らない・解らない≠勉強してない
- ◆ 若者に対する批判: 昔からの繰り返しでしか
- ◆ もう「学生」です。「大人」です。<=== 生徒からの脱皮
- ◆ 判定者『入学者には責任を持って指導する』

18

高校教育を横で拝見していて

- ◆ アドミッションセンター教員として
疑問を感じる点を幾つか
- 1) オープンキャンパス
- 2) 進路指導
- 3) SSH (Super Science High School)
- 4) 大学訪問、出前講義
- 5) 文理選択時期

19

1) オープンキャンパス

- ◆ おかげさまで多くのご参加
 - ◆ 何を期待されているのだろうか?
- ◆ 平日に訪問されませんか? (むやみには建物内に立ち入らないようにお願いします。)
 - ◆ 名称が混乱の元? O.SchoolとO.Campusの違い
 - 大学は Everyday, Every hour オープンです
 - ◆ 現状: 高校生を見に来ていることになっていないか?
- ◆ 「探検」、「散策」、「近場」の目的地に如何?
 - ◆ 学食で昼食をとって、構内を散策
 - ◆ できれば2~3人、少人数。譲歩して遠足で。
- ◆ ご訪問の目的は? 平日じゃダメ?
 - ◆ 大学生を見に来ませんか?

20

2) 進路指導

- ◆ 進学説明会で対応していて「あれっ?」
- ◆ どの様な手順で行われている?
 - ◆ 時間軸の流れの中で
 - ◆ 高1の初夏、高3の初秋、...、中1の...
- ◆ 大学・学部を知る、調べてもらう
- ◆ いろいろな「学士」が存在＝混乱?
 - ◆ 先生方にも理解してもらえていない?
 - ◆ 同僚、卒業生等を駆使されてはどうか?

21

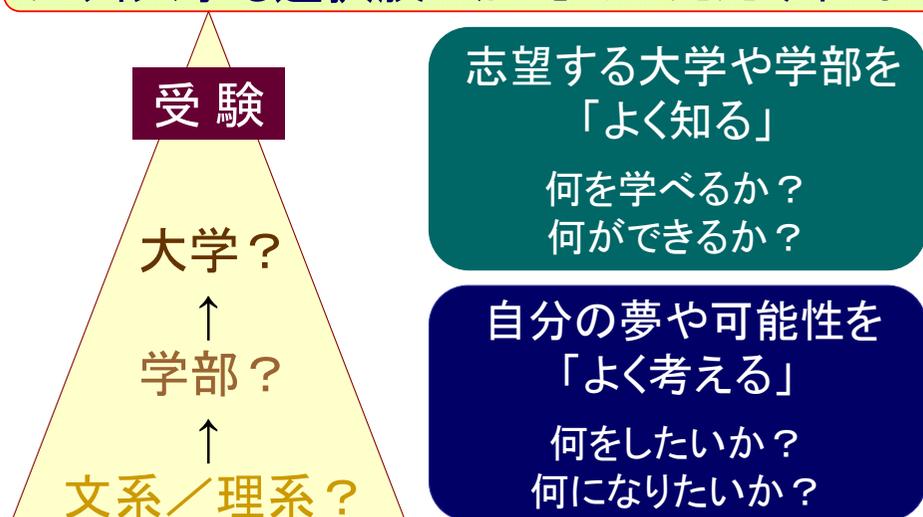
2) 進路指導

- ◆ 将来、何をやりたいのか?
 - ◆ 夢、可能性、動機
- ◆ その夢はどこで実現できるのか?
 - ◆ 専門領域? (文系? 理系?)
 - ◆ 学部の特徴
 - ◆ その学部を有している大学
- ◆ 学年と共に進化、深化、変化
- ◆ 「画一的」、「一般的」な質問を指示?

22

大学をどう選ぶ

九州大学も選択肢に加えていただければ!



23

3) SSH (Super Science High School)

- ◆ 将来の国際的な科学技術関係人材を育成するために、先進的な理数系教育を実施する高等学校等をスーパーサイエンスハイスクール(SSH)として指定して支援を実施
- ◆ 平成14年度(2002年度)から。全国で200校程度。
 - ◆ 先生方のご尽力は相当のもの
- ◆ 活動内容
 - ◆ カリキュラムの開発、教科書の策定
 - ◆ 科学的活動: 実験、実習、演習、セミナー、発表会
 - ◆ 国内研修、海外研修、TV会議
 - ◆ 研究成果発表: 年に1回
 - ◆ 研究開発実施報告書
 - ◆

24

3) SSH (Super Science High School)

- ◆ 高校に依って濃淡があるのではないか?
- ◆ 科学者の未来は? アカデミックポストの量・質
- ◆ Late Specializationとの関係は?
 - ◆ 大学入学時には細かな専攻を決めずに、教養教育を行う過程で専攻を決めるという制度
 - ◆ 狭い専門に凝り固まった人材ではなく、総合的な視座から研究や社会をリードできる人材を育成するために、自然科学や人文科学の十分な素養がついた上で専門を選択させよう(名大・理)
- ◆ AO入試の積極的な利用は如何?

25

4) 大学訪問、出前講義

- ◆ 何の提供を期待されているのか?
- ◆ 高校教育の一環として
 - ◆ どの部分に位置付けられているのか?
 - ◆ 訪問の目的は? 教員間で共有されている?
 - ◆ 「総合的学習の時間」の
安易な消化に使われてはいないか?
- ◆ 高校教員の
“体力”の減衰・減退につながらないのか?
 - ◆ 日頃生徒に接しているのは高校教員
- ◆ 輸出過多ではないか?

26

5) 文理選択時期

- ◆ 高校2年生に進級時に選択が多いようだ
- ◆ 文系/理系に分けることの意味
- ◆ 高校への進学率が98%: 一種の義務教育化
- ◆ 勉強しない領域が出てしまう
 - ◆ 文系における数学、理系における日本史等
 - ◆ 行き過ぎた多様性では?
- ◆ 早期化は日本国にとって許容できるのか?
- ◆ 大学入試の弊害? 大くくり入試なら是正可能?

27

高校の役割

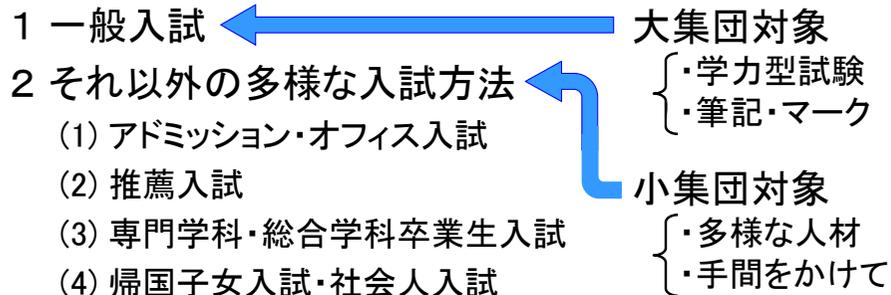
- ◆ 基礎・基本の定着＝論理的思考力の『源』
 - ◆ 学習指導要領に沿った
- ◆ 社会科学や自然科学の面白さ・興味の換気
 - ◆ 科学技術の不思議さ、奥の深さ
- ◆ 動機付け: なぜ大学に進学するのか?
- ◆ 高大連携の行き過ぎには警戒
 - ◆ 高等学校と大学のそれぞれで分担
- ◆ 重要な充填期間・機関
 - ◆ 大学で輝くために: タネがあるから開花する
 - ◆ 有意義な3年間であってほしい

28

大学入試=高大接続のいち部分

◆平成27年度大学入学者選抜実施要項(平成26年5月28日付け)
 ◆ http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2014/06/17/1282953_02.pdf

◆第3 入試方法



◆それぞれに特徴、利点・欠点

◆今後「多様な入試方法」が注目? 移行? 実現性?
29

日本におけるAO入試の導入

AO = Admissions Office

アメリカの大学で入試業務を担当する組織

詳細な書類審査と時間をかけた丁寧な面接等を組み合わせることによって、受験生の能力・適性や学習に対する意欲、目的意識等を総合的に判定する方法 (文部科学省)

1990	慶應大学湘南藤沢キャンパス(SFC)			
1997	中央教育審議会第二次答申(6月)			
1999	国立3大学(東北、筑波、九州)にアドミッションセンター			
2000	70余大学が実施(AO入試元年)			
2013	国立	47大学(全82大学)	57%	137学部
	公立	23大学(全81大学)	28%	35学部
	私立	466大学(全577大学)	81%	1154学部
	合計	536大学(全740大学)	72%	1326学部

30

AO入試: 国立大と私立大

◆AO入試って失敗?? <=== 新聞等

◆九大の場合: 定員 195名(7.6%)

◆設置者に因って明らかに異なる

◆割合 ==> 次ページ

◆試験方法

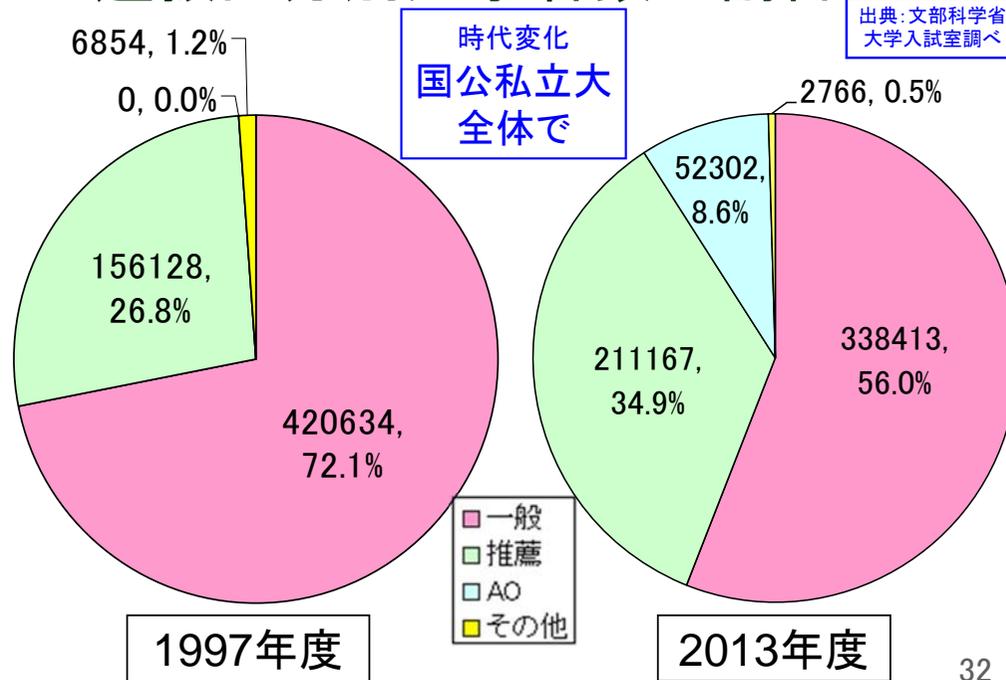
◆導入目的も?

◆国立大: 「学力不問」ではない
 学力も重要な「評価対象」の一つ

31

選抜区分別入学者数の割合

出典: 文部科学省
 大学入試室調べ

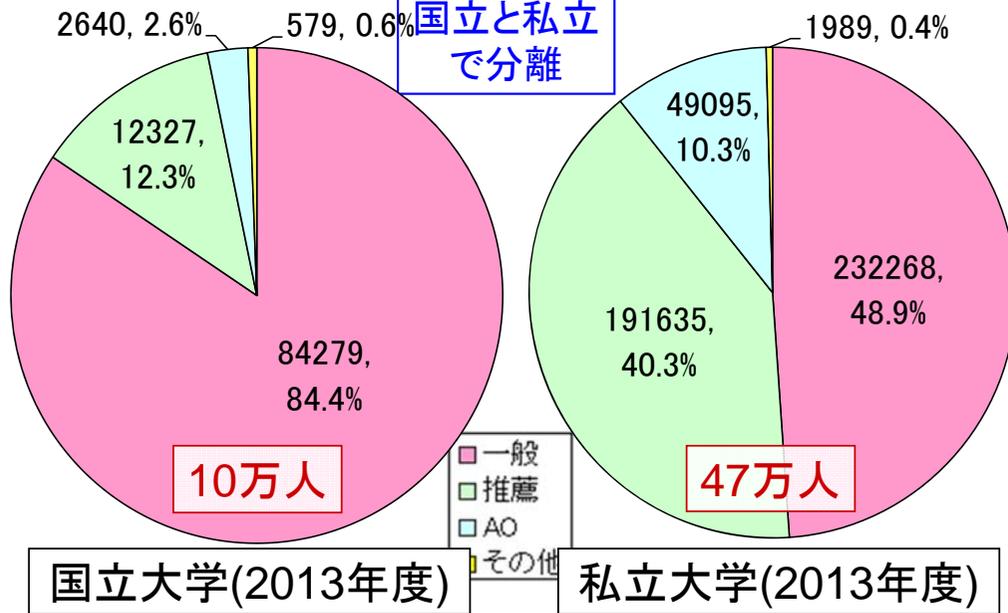


32

選抜区分別入学者数の割合

出典: 文部科学省
大学入試室調べ

2013年度を
国立と私立
で分離



日本のAO入試

- ◆ 国公立大学と私立大学とで全く異なると考えてよい
- ◆ アメリカのAO入試とも異なる
 - ◆ 主に事務員(Officer、not 教員)が関与
 - ◆ この中にもいくつかのタイプがあるのかもしれないが
- ◆ AO入試: 同じ名称だが、3つとも違ったものである
 - ◆ 「アメリカ」のAO入試
 - ◆ 「日本の私立大学」のAO入試
 - ◆ 「日本の国公立大学」のAO入試
- ◆ それぞれは区別して議論すべき: 米、私立、国公立
 - ◆ 区別しないと非生産的な議論にしかない
 - ◆ 「学科試験を課していないから……」はダメ
 - ◆ 「AO入学の学生は……」はダメ

AO入試の利点と欠点

- ◆ 利点
 - ◆ 日頃の高校生活の“様子”が垣間見られる
 - ◆ ミスマッチが少ない
 - 両者の理解の下、入学
 - 大学の理解、満足度
 - ◆ 「カナリア効果」: 他の学生への波及効果、21cp等
 - ◆ 学力に明確な差はない: 前期、後期、AO
 - 渡辺・福島(2008)、「公表データからみるAO入学者の評価」、大学入試研究ジャーナル、No.18。
 - ◆ 学部教員に高校生を見せる
- ◆ 欠点
 - ◆ 手間がかかる : [優秀な学生が確保できる]
 - ◆ 高校側からは対策が立て難い : [そうあるべき!] 35

一般的に国立大学の

AO入試の普及が進まない理由

- ◆ 手間がかかる
 - ◆ 準備
 - ◆ 要員
 - ◆ 学力担保の確認作業の難しさ
- ◆ 推薦入試のノウハウがあり、期待する学生が確保できている
- ◆ 新しい方法への畏怖の念
- ◆ ...

九州大学では AO入試 基礎学力+α

2000年度から、東北大・筑波大と共に国立大初のAO入試としてスタート

- ◆ 一芸・一能入試ではない
- ◆ 学校長の推薦がいない
自己出願
- ◆ 認知領域と情意領域を
総合的に評価
- ◆ 入学後の修学のため、基
礎的学力はしっかり見る
- ◆ 学部のアドミッションポリ
シーに応じて異なる

情意領域：意欲や関心

適性 学習意欲 責任感
誠実性 協調性

総合評価

認知領域：基礎的な学力

問題発見能力
論理的思考力
表現力 理解力 応用力

九州大学 AO入試の変遷

セ試	学部等	～1999	00	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16
課さない	21世紀プログラム		×	★	18	21							26						
	教育										★								10
	法																		終了
	薬																		終了
課す	創薬科学																		6
	臨床薬学																		6
	法																		10
	物理																		10
	化学																		15
	地球惑星																		8
	数学																		8
	生物																		5
	医 保健(3専攻)																		21
	歯																		8
	環境設計																		10
	工業設計																		5
	画像設計																		5
音響設計																		5	
芸術情報設計																		5	
農																		20	

*セル内の数字は募集人員	総募集区分	3	5	6	11	13	13	16	16	19	20	19	19	19	17	17	18	18
総募集人員		76	104	114	156	170	170	179	179	223	237	201	197	197	185	185	195	195
総志願者数		469	467	496	594	523	721	696	768	834	786	825	677	728	763	684	689	
総倍率		6.2	4.5	4.4	3.8	3.1	4.2	3.9	4.3	3.7	3.3	4.1	3.4	3.7	4.1	3.7	3.5	

★:以前の経験なし
多くが推薦からの移行
(現在、推薦入試は実施していない)

国立大学初
(他に東北・筑波)

※法学部はセンター試験を
課すAOとして15年に再登場

九州大学 AO入試の選抜方法

セ試	学部等	1次選抜	2次選抜
課さない	21世紀プログラム	書類審査	講義・レポート/討論,小論文,面接
	教育	小論文	プレゼンテーション, 面接
	法	(小論文)	(口頭試問) 09年終了
	薬	(書類審査)	(小論文, 面接) 12年終了
課す	臨床薬学	(書類審査)	(小論文, 面接)
	法	書類審査	英語学力試験, 面接
	物理		課題探求試験, 面接
	化学		面接
	地球惑星		課題探求試験, 面接
	数学		課題探求試験, 面接
	生物		面接
	医 保健(3専攻)		小論文, 面接
	歯		小論文, 面接
	環境設計		面接, 実技
	工業設計		面接, 実技
	画像設計		実技
	音響設計		小論文, 実技を含む面接
芸術情報設計	小論文, 実技		
農	小論文, 面接		

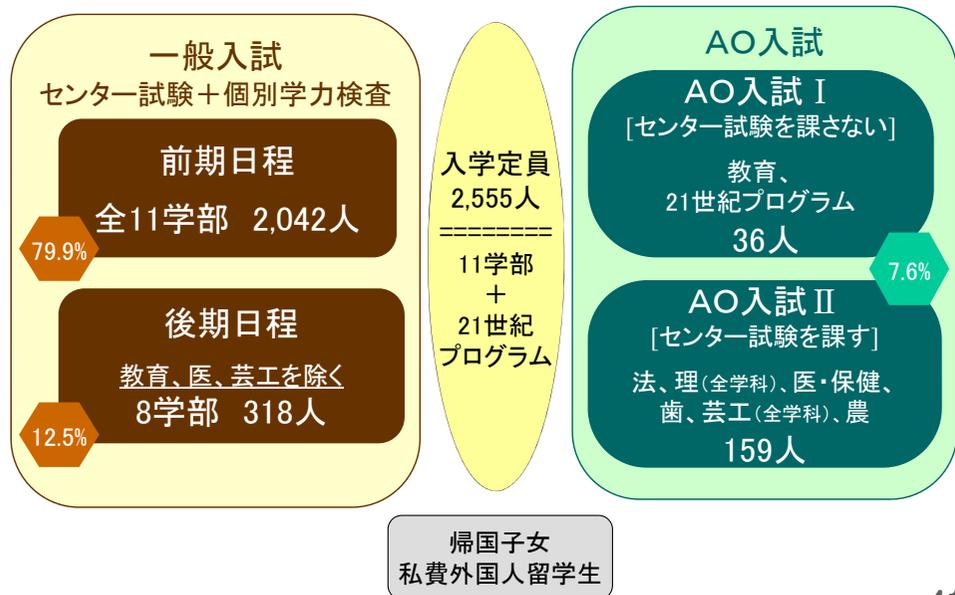
九州大学 AO入試の選抜方法

◆ 21の募集区分がある中で(終了も含む)

- ◆ 書類審査(19)
 - ◆ 面接(18)
 - ◆ 小論文(12)
 - ◆ 実技(4)
 - ◆ 課題探求試験(3)
 - ◆ 講義・レポート(1)
 - ◆ 討論(1)
 - ◆ プレゼンテーション(1)
 - ◆ 口頭試問(1)
 - ◆ 英語学力試験(1)
- (括弧内は出現頻度)

◆ これらの組み合わせ: 選抜単位によって
◆ それぞれで「手の込んだ選抜方法」を取捨選択

2015年度(平成27年度) 入学者選抜



九州大学AO入試 2015年度AO入試

文学部		歯学部	8
教育学部 ★	10	薬学部	創薬科学 臨床薬学
法学部	15年に再登場 10		12年で終了
経済学部		工学部	
	物理 10		環境設計 8
	化学 15		工業設計 15
理学部	地球惑星 8	芸術工学部	画像設計 18
	数学 8		音響設計 5
	生物 5		芸術情報設計 8
	医学	農学部	20
	生命科学		
医学部	看護 9		
	保健 放射線 6		
	検査 6		

21世紀プログラム ★ 26

7+1学部 18募集区分
総募集人員 195名
★: センター試験を課さない

定員の 7.6%

【学生募集要項 P2】

The 21st Century Program 求める学生像

問題の発見とその解明をめざす自主性

文系理系にこだわらず
幅広く学びたい
という学問的関心

政治、社会、歴史、
文化、自然に対する
一定以上の教養

求める学生像
アドミッションポリシー

学問を積極的に学びたい
という意欲や能力

語学力を身につけよう
という意欲

The 21st Century Program 選抜の流れ

願書受付	9月下旬	9/22(月)~26(金)
	調査書, 志望理由書, 活動歴報告書	
第1次選抜	10月中旬 書類審査	
第2次選抜	11月上旬	10/17(金) 1次合格発表
第1日目	講義・レポート (3テーマ)	11/1(土)
第2日目	グループ討論, 小論文, 個人面接	11/2(日)
合格発表	11月下旬	11/25(火) 2次合格発表

選抜の過程が入学後の修学の過程

(日程はH27年度のもの)

第1次選抜

- ◆ 出願時提出資料
 - ◆ 志望理由書(2面)
 - 志望する理由、自己の適性や抱負
 - ◆ 調査書等(内申書)
 - ◆ 活動歴報告書(2面): 中学からの活動を記載可
 - 各種活動、表彰、資格等
- ◆ 書類審査
 - ◆ 「AP」や「求める学生像」との合致度合を評価
 - 理念の理解度等
 - ◆ 試験場施設の関係から3倍程度に絞る
(H27年度の例では73名。2.8倍)

第2次選抜



第1日目(土曜日)

9:30-11:30 講義1・レポート1 (120分)

12:30-14:30 講義2・レポート2 (120分)

15:00-17:00 講義3・レポート3 (120分)

軸が違う3テーマ
講義: 約50分
レポート: 約70分

講義や資料に
英語を含むことがある

第2日目(日曜日)

論題は当日朝に提示(“予習”を避けるため)

9:00-11:30 グループ討論 (150分)

3つの講義から2つを選んで討論

12:30-17:00 小論文(270分)、個人面接

15分/人

3つの講義のいずれかに関連するテーマを設定して作成

随時別室で休憩可

The 21st Century Program 講義

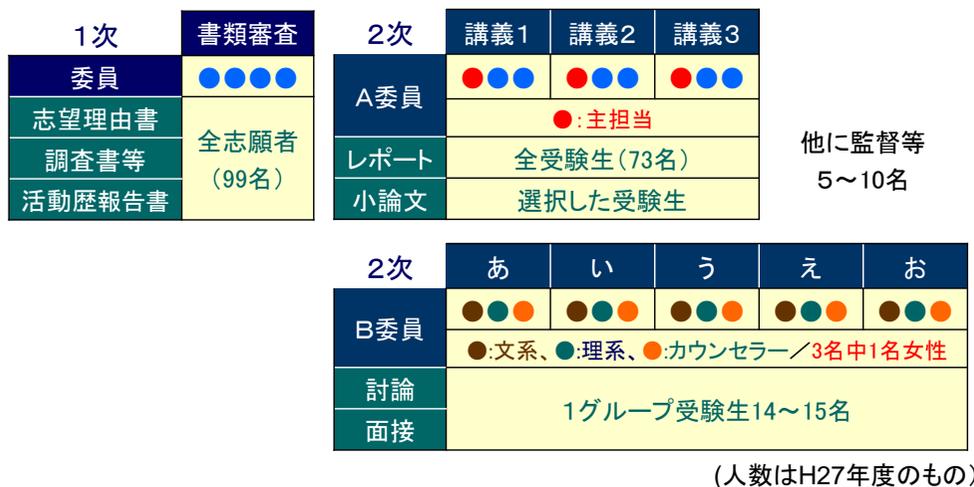
年度	題目	
H23 (2011)	1 日本における死因究明制度	直近5年分。 全部で 15年分あり。
	2 おとぎ話とジェンダー	
	3 学ぶことと働くこと	
H24 (2012)	1 放射線と健康の科学	☞ 楽しく受験することができてよかった
	2 歴史 学問と教科の間	☞ いろんな方がいてとても楽しかった
	3 民主主義の根底にあるもの	☞ 心底惚れ込みました。絶対に来たい
H25 (2013)	1 「邪馬台国」と考古学 — 通説と考古学	☞ 大学の講義を聴けただけでも、 受けた甲斐があった...
	2 独裁体制はいかに維持されるのか	
	3 The Wonder of Water (水の不思議)	
H26 (2014)	1 心は物質に還元できるか?	☞ 何の話があるのか興味津々だった
	2 世界のイノベーション構造の変化 — 「リバースイノベーション」、イノベーションの	☞ 受験と感じないほど明るい雰囲気 ☞ 初めて会った人とも気軽に話
	3 生物の自己複製 — DNA複製からiPS細胞の作成まで	
H27 (2015)	1 身の回りの確率論 — 確率を使って —	
	2 里地・里山の保全と農山村の持続性 ～人口減少社会と集中豪雨災害～	
	3 古語は辺境に残る? — 言語史研究の方法 —	

第2次選抜 グループ分け(討論、面接)

第1次成績

あ	い	う	え	お
1 → 2	3	4	5	↓
10	9	8	7 ← 6	
↓	11 → 12	13	14	15
20	19	18	17 ← 16	↓
↓	21 → 22	23	24	25
30 ← 29	28	27	26	↓

- ◆ 第1次成績を均等化
右表をベースにし、さらに
- ◆ 男女比が均等
- ◆ 現浪比が均等
- ◆ 地域性が均等
- ◆ 同一高校別グループ
になるように組換え

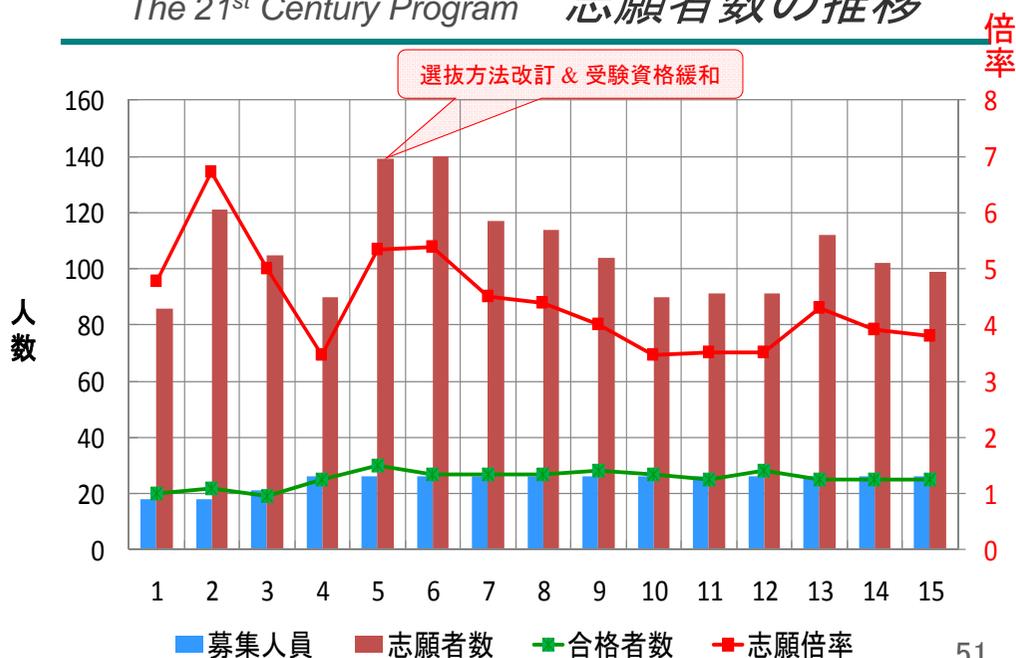


- ◆ 評価は、A~Dの4段階評価
(活動歴報告書は3段階評価)

評価方法

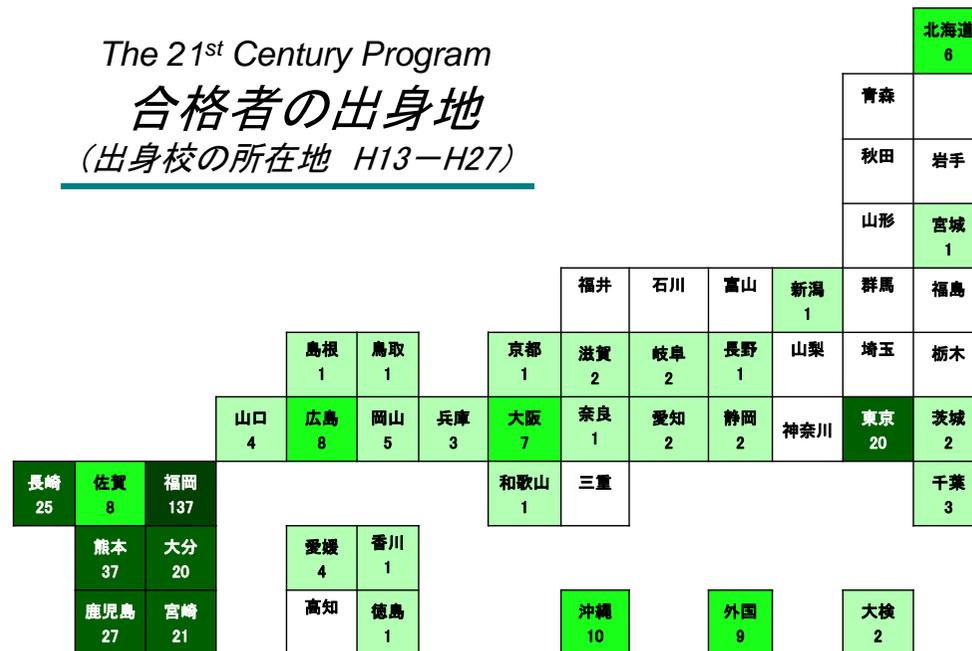
- ◆ レポート(3通)、小論文、討論、面接
 - ◆ A~Dの4段階
 - ◆ それぞれ3名の委員
- ◆ 査定
 - ◆ 選抜に関係した35名程度で行う
 - ◆ レポート・小論文の評価
 - ◆ 討論・面接時のやりとり
 - ◆ D評価を付けた理由について
 - ◆ 高校での学習履歴
 - ◆

The 21st Century Program 志願者数の推移



The 21st Century Program 合格者の出身地

(出身校の所在地 H13-H27)



21cpの入試方法

- ◆ 大学教育の一端を体験: 受験対策は困難では?
 - 聞く、読む、考える、議論する、まとめる、.....
 - ◆ 非常に手間がかかる → ◆ “良い”学生の獲得
 - 準備、委員の選定、確保 ◆ 理念に沿った学生
 - 評価方法、公平性、..... ◆ 改良を続けながら継続
 - ◆ 日頃の高校生活を評価: “対策は不要”
 - 何を考えた? 大学に何を求めている? その準備状況は?
- ◆ 1次と2次の相関: 低いことも十分有り得る
 - ◆ “優秀な”受験生の取りこぼしは
1次選抜において是非とも避けなければならない
- ◆ 今後の主流(or 傍流)となるかは不明
 - ◆ 特に大人数に対しての方法としては困難が予想される

53

まとめ

バランス・試行錯誤

- ◆ 高校の役割
 - ◆ 基礎基本の定着
 - 学習指導要領に則った
 - ◆ 進学動機・目的
 - ◆ 言語運用能力
 - 思考の根幹
- ◆ 大学の役割
 - ◆ 論理的思考力の発展
 - 物事への考え方の修得
 - ◆ いろいろな経験をしてもらえる環境の整備
 - ◆ 国内外問わず
- ◆ 大学入試
 - ◆ 多様な学生を発掘可能とする手段の工夫・駆使
 - 教科学力の担保は外せない
 - ◆ 一般入試とAO入試・推薦入試: バランス・目的
 - 大学に何を期待するのかを問う
 - ◆ 21cp型の入試が広まるかは不明
 - ◆ “AO入試”という呼称と、その理解のされ方

54

99. 将来に向けて

- ◆ 参考にしていただける事項はありましたか?
 - ◆ ほんの多少なりもと
 - ◆ 皆様のご検討の参考になれば
 - ◆ いろいろな議論の下地になれば
- ◆ 学生: 高校と大学の受け渡し
 - ◆ 「相互に理解」する必要
 - ◆ より良い「受け渡し方法」の
実現を目指して
- ◆ 一緒に 考えて行きませんか?



55



KYUSHU UNIVERSITY 100th 2011
知の世紀を拓く

「高大接続における
両者の役割とその入試
～九州大学を例に～」



ご清聴 ありがとうございました
多少なりともお役に立てれば幸いです

林 篤裕 (Atsuhiko Hayashi)

九州大学 基幹教育院
& アドミッションセンター

(21世紀プログラム主導教員)

e-mail: hayashi@artsci.kyushu-u.ac.jp

住所: 〒812-8581 福岡市東区箱崎6-10-1

Tel: 092-642-4489 / Fax: 092-642-4485



56